



加藤 悦子

「努力はきつと報われる」 そんな思いをルワンダの若者に

ルワンダの首都キガリで、元ストリートチルドレンが働く工房がある。
名前は、仕事のある生活"を意味する「ウムリモ・ムブジマ」。
工房を立ち上げ、今も支援を続けているのは愛知県在住の加藤悦子さん。
ルワンダで活動していた青年海外協力隊員OGだ。



加藤悦子さんの活動の詳細はホームページ
でご覧いただけます。
<http://www.worklivelove.net/>

牛の角を使った 収入向上プロジェクト

加藤悦子さんが、青年海外協力隊員としてルワンダの首都キガリにあるストリートチルドレンの保護施設に赴任したのは2006年。臨床心理士として、現地スタッフとともに街へ出て、彼らにカウンセリング技術を教えるのが役割だった。しかしその街中で、加藤さんは何度も知っている顔に遭遇していることに気付いた。

「施設が援助して、学校に通えるようになったはずの子どもたちが、また街に舞い戻って路上生活を送っているのです」

施設に保護される子どもたちは、少しでも家計を助けようと荷物持ちなどの仕事を始めるが、寒さや空腹を紛らわすため、マリファナやシンナーを覚え、家庭と疎遠になり、路上で仲間たちと暮らすようになる。保護されても、また同じ道をたどってしまうのだ。

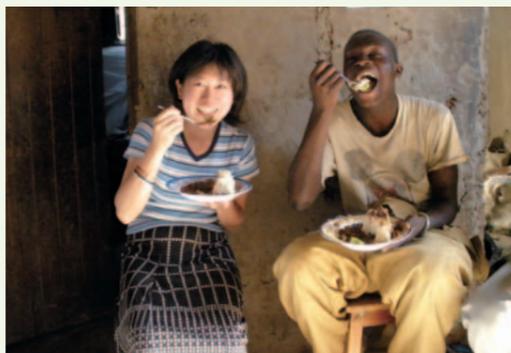


牛の角を紙やすりで丁寧に磨く作業員。ルワンダの一般的な家屋は、窓が小さく室内が薄暗いため、大きな工具を必要としない作業は屋外で行う

「工房を増やすこと。これが工房の使命です。そうすれば、安定した収入を得る若者をもっと増やせます」

今回、加藤さんは個人でも申請できるJICA基金を利用して、モーターや万力、ハンドドリルなどを購入し工具類を充実させた。将来、工房を拡張することを見据えての投資だ。しかし、工房で働く若者たちから思わぬ反発が出た。

「工具を買うくらいなら給料を上げてくれ」新人りの作業者に技術を教える



給料日、満面の笑みを浮かべる作業員と加藤さん。実はこのランチ、「できることは自分たちでやって、お金は可能な限り材料費に使いたい」と、作業員たちが交代で調理している



昨年からは新しく始めた、貧困女性のカゴ編みプロジェクト。ストリートチルドレンばかりでなく、母親たちも稼ぐ手段を得られるようになることが目的

「ルワンダには、食事時に来客があれば、必ず客人と食べ物をつかち合うという、美しい助け合いの文化があります。しかし、工房の使命を何度も話してきたにもかかわらず、利己的な発言しかなかった。彼らには情けない思いがしました。でも一方で、彼らのすさんだ心が垣間見えたようにも思え、胸が痛みました。彼らは自

分のことしか考えられないほど、厳しい環境を生き抜いてきたんだなあと、思ってしまった。

親を1994年の虐殺で亡くして、小学校2年で学校に行けなくなった子がいる。親の重婚で、家を追い出された子もいる。しかし、工芸品づくりの技術を生かして安定した収入が得られるようになってきた。彼ら、彼らの暮らしは少しずつ変わっている。妹たちに仕送りする者もいれば、広い部屋に引っ越ししたり、携帯電話を買った者もいる。夜間の英語学校に通い始めた者もいる。

「若者らしく、給料日の後には洋服が増えたり、靴が新しくなったりしてほほ笑ましいです。ルワンダでは、汚い格好で街を歩いていると浮浪罪で逮捕されてしまう。ですから、二重の意味で、よい効果をもたらしていると思います」

現在、加藤さんの大切な仕事は日本での販路の拡大だ。ジュエリーショップやフェアトレードショップなどへ営業に回っている。そして年に数回、ルワンダの工房を訪れる。

「給料日に見せる彼らの笑顔はとても素晴らしい。どんな疲れも癒してくれる瞬間です。彼らは、努力は報われるのだと

「カウンセリングで心を癒すことはもちろん大切です。でも、子どもたちの家庭に安定した経済基盤がないことが、ストリートチルドレンを生む一番の原因だと思います」
自分ができるところで。加藤さんの出した結論は、牛の角を使った工芸品の製作工房「ウムリモ・ムブジマ」を開設することだった。07年、協力隊員としての活動をこなしながら立ち上げた工房。働くのは、それまで施設で製作技術を学んできた若者たちだ。「当時、施設では職業訓練の一環として、牛の角を使った工芸品づくりが行われていました。しかし、単なる訓練に過ぎず、販売まで行われていませんでした。今までは、仕事にならなかった技術。だがこれからは、その技術を生かして稼げるようになるのだ。」

若者たちの素晴らしい笑顔に出会える日

しかし、工房の運営はそう簡単にはい



大きく、分厚く、重たい牛の角が、こんなかわいらしい商品へと生まれ変わる

「努力はきつと報われる」。そのことをルワンダの多くの若者に信じてほしいと考える加藤さん。

「その思いは、やがてキガリの街のすべのストリートチルドレンを救い、そしてかつてルワンダに大きな悲劇をもたらした2つの部族に心からの和解をもたらしてくれるはず」
そう確信している。

あなたの小さな一歩から始まる国際協力 世界の人びとのためのJICA基金

JICAでは、国際協力に関心のある日本の皆さまからの寄付を、開発途上国の貧困削減や環境保全への取り組みに活用する「世界の人びとのためのJICA基金」で受け付けています。皆さまのご支援をお待ちしております。

寄付金の使われ方

お寄せいただいた寄付金は、途上国の貧困削減、医療や教育の提供、環境問題の解決などに取り組むNGOの活動に充てられます。各支援活動や寄付金事業収支についてのご報告は、「JICA寄付サイト」で公表します。

寄付の方法

「JICA寄付サイト」からお申し込み下さい。クレジットカードによる決済や、銀行・郵便振込みなどがお使いただけます。
JICA寄付サイトURL: <http://www.kifu.jica.go.jp/>